

令和6年度 学校経営計画

1 地域の実態

礼文島は豊かな自然と水産資源、そしてそこに暮らす人々の素朴であたたかな人間性で広く知られた日本最北端の島である。眼下に礼文の玄関口・香深港を、彼方に秀峰利尻富士を望む校舎(H26 改築)で、生徒は次代の担い手となるべく、自立と共生の基礎を学んでいる。

古くから学校と地域のつながりが深く、教育への理解と協力が根付いた礼文で、生徒は感謝の気持ちを胸に明るく、元気に生活している。また、保小中高の教育連携「礼文型教育連携」を中心として、町全体で教育に対する思い入れが強く、長期的な視点に立った町ぐるみの教育実践が充実し、生徒は素直で優しい地域のリーダーとしても活躍している。

校区には14の自治会があり、校外班による配布物を届ける活動や年間を通して、生徒の出身校である文小学校・香深井小学校と行事や授業で交流を行っている。そのほか、地域の高校である礼高校とも進路指導をはじめとする連携を進め、相互に教育活動における協力・協同を進めている

2 生徒の実態

まじめで、教師の指示に従うことができる生徒である。また、概ね明るく、活発で、他者に対して優しい生徒であり、部活動や学校行事には積極的に取り組むことができる一方で、次のような課題もみられる。

- ①基礎的な学力の定着が不十分で、個別に支援が必要な生徒が各学年にいる。
- ②ゲームやスマートフォンなどの使用時間が長く、生活リズムが安定していない生徒がいる。
- ③指示待ち傾向がみられ、他者に対する依存傾向が強く、自治の力に課題がある。
- ④苦手なことや面倒な事から避ける傾向にある生徒がいる。

もちろん、生徒一人一人には良さがあり、それと同時に課題がある。上記の4つはどこの学校でも共通して見受けられるものであり、生徒の個々の状態に寄り添って、克服をめざしていかなければならないものである。

【在籍生徒数】 ※（ ）は特別支援学級在籍生徒

	1 年	2 年	3 年	全 校
男子	6	5	4	15
女子	5	4	4	13
合計	11	9	8	28

3 学校教育に求められるもの

I C Tの進歩により急激に進むグローバル化は学校教育にも大きな影響を与えている。学校教育に求められることも年を追うごとに複雑化しつつ増加している。一方で学校の努力だけでは、このような状況に対処することは難しく、保護者や地域と協力しながら、一人ひとりの子どもたちに「自分の確立」と「他者との共存」、そして自分を育ててくれた「地域への誇り」をもつことができる力の育成が求められている。

ところで新指導要領では自立の精神をもち、生涯にわたって学習する基盤を培うことや自他の生命を尊重し、互いの良さを認め合う人間関係を築く力を育むことが求められている。そして、これからの時代をよりよく生きていくためにも、正解が見出しにくい状況にあって、最適解を求めながら課題を解決していく力を高めていくことが重要である。

香中の生徒たちがこのような力を身につけることができるよう、まずは大人がしっかりと意識して子どもたちと向き合うことが大切である。学校・家庭・地域とが連携し、子育ての共同体として、礼文の子どもを健やかに育むという使命のもと、本校の教育を進めていかなければならない。

4 校訓

考える 思いやる 鍛える

5 学校教育目標

～自ら考え、共に高め合い、
未来を切り拓いていける生徒の育成～

6 めざす生徒像（具体化）

礼文が好きと言える生徒

「礼文が好き」と言える生徒を育てるために、
たくさんの「好き」見つけ出すことができる人に
だから、香中生にはこんな人になって欲しい（自分の力で人生を切り拓くために）

- ①課題に気がつき、克服しようとする人
- ②仲間と協力し、解決しようとする人
- ③あきらめずに、継続しようとする人
- ④興味を持って、挑戦しようとする人
- ⑤自分との関わりで、意識しようとする人

→学びに向かう力・人間性

7 令和6年度 学校経営の基本方針

対話に基づく高め合いを引き出す指導

私たち教職員は私たち教職員は思春期という難しい時期を迎えた中学生に対して、時には仲間のように接し、時には乗り越えなければならない大きな壁となり、そして時には大人になるためのモデルとなり、日々、様々なアプローチを行っている。それは、私たち教職員が香中生にはこんな大人になって欲しいという強い思いから生まれる崇高な営みである。そして、この思いを保護者・地域みなさんと共有して取り組むことができたとき、子どもたちは毎日を健やかに過ごすことができ、自分に自信を持って、様々なことにチャレンジしながら生活することができる。この積み重ねが、これからの難しい時代を様々な人たちと協力しながら、人として自立する力を子どもたちに身につけてさせることになる。そしてこの願いを実現するために対話が最も重要になる。教師と生徒の対話はもちろんのこと、生徒同士の対話、生徒と保護者、教師と保護者、教師と地域など、様々な場面での対話が目標を共有化させ、新たな取り組みを創り出していく原動力とする。

今年度、香中生を中心とした対話を通じて、香中生の成長はもちろん、大人としての高め合いを進め、地域に貢献できる学校経営をめざしていきたい。

8 重点課題

- ①対話による最適解を求める態度の育成
- ②基礎・基本の定着と活用する力の育成
- ③生活マネジメント力の育成

9 教育目標実現のための指導の重点（学びに向かう人間性を育成するための重点）

1 知識・技能（何ができるのか）

- ①基礎・基本的な知識の定着
- ②よりよい対人関係をつくる技能の習得
- ③自己の意見を発信する知識と技能の習得
- ④生活をマネジメントする知識と技能の習得
- ⑤働くことに対する知識と技能の習得

2 思考・判断・表現など（できることをどう使うか）

- ①自ら決定し、挑戦を続けようとする態度の育成
- ②人のつながりを大切にしようとする態度の育成
- ③地域に貢献しようとする態度の育成
- ④よりよい社会をめざそうとする態度の育成
- ⑤世界とのつながりを考えようとする態度の育成

1 知識・技能

①基礎・基本的な知識の定着

- ・生徒が主体的に取り組むことができる授業づくりの実現 → 校内研究により実現
- ・生徒が学び合い・高め合う授業づくりの実現 → 校内研究により実現
- ・小中の連携を意識した教育活動の実現 → 特別活動・総合学習により実現

②よりよい対人関係をつくる技能の習得

- ・進んであいさつを行い、仲間を大切にできる心の育成 → 全教育活動
- ・対話を大切にし、お互いに認め合う姿勢の育成 → 特別活動で実現

③自分の意見を発信する知識と技能の習得

- ・発表する場面を大切にした指導の実現 → 教科活動・その他の場面
- ・自立の心の育成 → キャリア教育による育成

④生活をマネジメントする知識と技能の習得

- ・自分の生活をマネジメントする力の育成 → プランニングノートの活用
- ・自律の心の育成 → 道徳指導による育成

⑤働くことに対する知識と技能の習得

- ・共に働く態度の育成 → 係活動や縦割り活動で実現
- ・地域での体験を大切にする教育活動の実現 → 教科活動・総合学習により実現

2 思考・判断・表現など

①自分の人生を切り拓こうとする態度の育成

- ・課題を意識し、挑戦する態度の育成 → 面談の活用など、個に応じた指導
- ・自治力の育成 → 生徒会活動による育成

②人のつながりを大切にしようとする態度の育成

- ・関わりを大切にできる、よりよい集団づくり → 特別活動
- ・他者のがんばりを讃えることができる関係の構築 → 「認める」を大切にした指導

③地域に貢献しようとする態度の育成

- ・地域を知る活動を大切にする教育活動の実現 → 総合学習により実現
- ・地域に貢献できる教育活動の推進 → ボランティアなどの実践

④よりよい社会をめざそうとする態度の育成

- ・学校文化や伝統の継承・発展をめざす教育活動の実現 → 教育課程の改善
- ・学びを追究しようとする態度の育成 → 全ての教育活動で実現

⑤世界とのつながりを考える態度の育成 → 全ての教育活動で実現

3 保護者・地域のサポート

保護者	地域
①安心できる居場所	①生徒の学びの場の提供
②愛情に基づく受容	②生徒の学びの受容
③学びを進めるベースキャンプ	③生徒の学びの応援団

10 その他の重点事項

(1) 健康安全教育的

- ①生活リズムの確立と日常的な健康チェックの取り組み
- ②感染症対策を意識した取り組み
- ③関係機関と連携を図った各種取り組み（防災、交通安全、情報モラルなど）
- ④小中連携した食育、性教育活動の取り組み

(2) 特別支援教育的

- ①個別の教育支援計画の作成と指導計画の改善の実施に努める
- ②支援が必要な生徒に対して、コーディネーターを中心とした組織的な取り組み
- ③個に応じた適正な就学支援の実施に努める

(3) 教育環境整備

- ①学校予算の効果的な執行、コスト意識の高揚に努める
- ②ICTの活用を意識した環境整備の推進に努める
- ③より良い学校をめざした迅速な環境整備の推進に努める
- ④校内外における積極的な研修活動の推奨に努める

(4) コミュニティ・スクール

- ①小中連携したコミュニティ・スクールの実現に努める
- ②学校のよき応援団として理解と協力がえられるように努める
- ③保護者・地域との連携を大切にし、常に情報発信に努める

(5) 働き方改革

- ①国や道の考え方の基づいた勤務体制の整備に努める（香中アクションプラン）
- ②一人ひとりが充実感を持って働くことができるような勤務状況の工夫に努める
- ③個々の事情を考慮した休暇取得や勤務体制の推進に努める

11 令和6年度 学校経営の重点を実現させるための意識

教職員が率先垂範という意識をもって教育活動にあたる。我々ができていないことを生徒達に指導しても、生徒達の心を動かす指導はできない。とくに今年度は私たち大人が様々な事象に対して深く考える姿勢を貫くことで、子どもたちにも考えようとする力や探究する力を身につけさせたいと考える。その上で、対話を大切にしながら、香中の先生方は何を大切にしているのかということをしかりと生徒に伝え、みんなが同じ意識をもって見通しをもった取り組みを大切にしたい。

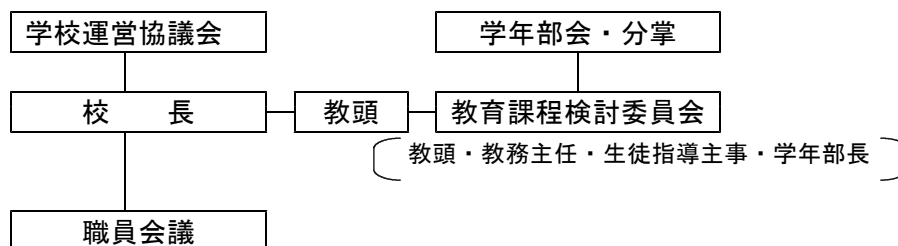
また、組織としてはもちろん、個々人でもそれぞれが豊かな働き方を実現できるよう取り組みや意識改革も進めたい。生徒の前に立つ私たち教職員が心身ともに健やかな気持ちでいなければ、よりよい教育の実現は不可能である。このような意識を持って、令和6年度の香中の教育を進めていきたい。

1 2 学校評価（香中評価一覧参照）

（1）目的

- ①学校の教育課題を把握し、課題解決のための計画・方策を策定する。
- ②今年度の到達点を確認し、次年度の学校改善・教育課程編成に生かす。

（2）組織



（3）方法

- ①教職員アンケート
- ②保護者アンケート
- ③生徒アンケート
- ④学校関係者評価（学校運営協議会員？）

（4）学校評価スケジュール

時期	実施内容	検討	集計	分析	公表・他
7月	教職員評価 生徒アンケート 保護者アンケート	校長	校長	校長	
8月	集計・分析結果を職員会議で検討				学校便り
12月 月上旬	教職員評価 生徒アンケート 保護者アンケート	校長	校長	校長	
1月	集計・分析結果を職員会議で検討				学校便り

（5）教育課程編成

時期	予定	実施内容
12月	教育課程検討委員会 職員会議 分掌・学年	提案事項の協議・改善案作成 検討事項の提案（校長・運営委員） 検討・提案
3月 まで	各分掌部会 職員会議 分掌・学年	具体的改善計画作成・提案 改善案協議 来年度 教育課程編成 完成